



# 天文資料

2021年 1月号

令和2年度 第10号 (1月号)

令和3年1月1日

発行：佐世保市少年科学館

佐世保市少年科学館



## <新年 あけまして おめでとうございます>

皆様、あけましておめでとうございます。本年も少年科学館をよろしく願いいたします。昨年は新型コロナウイルス感染に神経をとがらせながら生活する1年でした。本年はそれが終息し、普通に生活できるようになればいいなと思っています。

今年は「丑年」です。冬の空の天頂近くには赤く輝く一等星アルデバランを目前に持つおうし座が、いつもより大きく見えているようです。おうし座が向かう先には狩人の星座オリオン座があります。また、振りかざした角の先には英雄エリクトニウスを表したぎよしゃ座があります。オリオン座には赤く輝くベテルギウスと青白く輝くりゲル、ぎよしゃ座には北極星に一番近い一等星カペラがあります。

オリオン座の南には、恒星の中で全天一の明るさを誇るシリウスが輝くおおいぬ座があります。また、オリオン座の東側には、こいぬ座の一等星プロキオンが輝いています。おおいぬ座とこいぬ座は、おうし座に立ち向かうオリオン座を応援しているようにも見えますね。

こいぬ座の上には一等星ポルックスと二等星カストルが輝くふたご座があります。赤っぽく輝くポルックスが弟、白く輝くカストルが兄になります。この2つの星は、日本でも古くから「金星・銀星」とか「めがね星」とか呼ばれてきました。関心を持たれていたのですね。

1月の夜空は寒さが厳しいです。防寒対策をしっかりして楽しく観望してください。



国立天文台 HP より

木星の公転周期は土星の公転周期よりも早いため、20年間隔で木星が土星を追い越す天文現象が起こります。それが昨年12月20日～22日の間に起こりました。夕方の西空でまだ木星と土星は近くに見えていますが、少しずつ離れていきます。

## <はやぶさ2のカプセルが地球に帰還しました！>

昨年の1月号で、「小惑星探査機はやぶさ2がリュウグウを離れ、地球に帰還するためイオンエンジンを点火しました」との記事を掲載したのですが、そのはやぶさ2が1年がかりで地球に帰還し、12月5日にサンプルの入ったカプセルを打ち出しました。そしてそのカプセルは翌6日未明にオーストラリアのウーメラ実験場に無事着地しました。

はやぶさ2は、リュウグウ到着後に(1)小型ローバー:ミネルバによる表面撮影、(2)第1回タッチダウン(サンプル採取)、(3)インパクターによる人工クレーターづくり、(4)第2回タッチダウン(内部サンプル採取)といった複雑なミッションをすべてクリアしての帰還ですので、関係者だけでなく多くの方が喜びました。

日本に戻ってきたカプセルは、中にながりの土砂が入っているようです。JAXAの方が「言葉を失うほど」の感動を覚えられたのも無理はないと思います。サンプルの半分はJAXAが保有し、他はアメリカのNASAなどの海外機関に分配され、また一部は将来の分析技術の進歩を想定して保存されるそうです。

このような素晴らしいサンプルを地球に届けたはやぶさ2は現在、次の目的地である小惑星1998KY26に向けて地球から遠ざかっています。直径30mほどの小型の小惑星で高速自転していることがわかっています。到着は2031年7月ごろとみられていますが、無事到着してまた新しい情報を届けてくれることを願っています。

